

☆聖霊降臨の主日(5月28日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (使徒たちの宣教 2章 1-11節)

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あつげにとられてしまった。人々は驚き怪しんで言った。

「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。 わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。 また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙 1章 3b-7, 12-13節)

兄弟のみなさん、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」とは言えないのです。賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。 務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。 働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。 一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。 体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。 つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、

奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。

福音朗読 (ヨハネによる福音書 20章 19-23節)

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

聖霊降臨の祭日お祝い申し上げます。この時から教会は誕生したのです。今もその聖霊の働きは継続中です。その働きとは、聖霊とともにイエス・キリストを信じる皆さんが神の国に連なれるように教え導くことです。現代の世界も二千年前の時と同じように混乱し、絶えず争いがあり、信教の自由が侵され、国と国が対立し多くの人々を苦しめています。今こそ聖霊の働きを強めて、イエスの福音がより多くの国々に広まっていくように祈りましょう。また今日は東京カテドラル MARIA 大聖堂において東京教区の合同堅信式が行われます。足立教会からも参加します。どうぞ参加者の上により多くの聖霊の恵み、照らしがありますようにお祈りください。そしてまた今日は久しぶりに足立教会の信徒総会が開かれます。皆様一同の上に聖霊が降り、信徒の皆さまの心が燃え上がりますように祈りましょう。

第一朗読 (使徒たちの宣教 2章 1-11節)

イエスの復活を信じる人たちが大勢集まっている広間に聖霊が降った様子が語られています。解説によると百二十人ほどの弟子たちがいたようです。火の舌のような聖霊に皆が満たされて、様々な国の言葉で話したとあります。この書物を著したルカはその様子を表すのに、当時エルサレムに巡礼に来ていた国々の名前を挙げています。実に十五以上の地域の人々で、当時の交流のあった地域でしょう。無学な弟子たちが突然雄弁に話し出したので人々が驚いた様子が記されています。それは当時の世界の縮図でもありました。イエスが命令されたように全世界に行ってイエスの福音を伝えたのです。これがイエス・キリストの教会の誕生であり、福音を伝えるために世界に出ていく教会の誕生なのです。

第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙 1章 3b-7, 12-13節)

コリントの教会では信徒の皆さんの働きが教会の一致ではなく、分裂に向かいそうな様子を見てパウロは意見をしています。私たちに与えられる聖霊の賜物は私たちがキリストの体を作り上げるために与えられているのです。私たちの体は一つでも様々な部分からなっているように私たちはユダヤ人であろうと奴隷であろうと、皆でキリストの体を作り上げるために、霊によって集められたのです。パウロはキリストの教会が世界各国のイエスを信じる人々によって作り上げられることを意識しているのです。聖霊はまさにイエスを信じる人々の一致の力なのです。

福音朗読 (ヨハネによる福音書 20章 19-23節)

ヨハネは主の復活の日の夕方の出来事を私たちに知らせてくれています。弟子たちはイエスを十字架に付けて殺した人々の襲撃を恐れて、家に鍵をかけて閉じこもっていました。そこにイエスが現れて、「あなたがたに平和があるように」と言って現れたのです。私たちはミサの中で「主の平和」と互いに声を掛け合いますが、まさにそれがイエスのなされた平和の挨拶を表して

います。そして彼らに息を吹きかけて「聖霊を受けなさい」と言われました。聖霊とは主イエスの息吹なのです。私たちの息吹は私たちが生きている証拠です。聖霊は主イエスを生かしている神の愛の力です。私たちの息は神の力を表しているのです。私たちは神の霊、聖霊によって生きているのです。すうっと深呼吸をして聖霊の力を感じてみましょう。



深呼吸をして聖霊の息吹を感じてみましょう。(尾瀬沼・大江湿原 2022年7月)

P.S.

聖霊は一致の力です。御父と御子の相互の愛から発出しています。私たちの家族に、私たちの教会に、私たちの地域に、国に、そして世界に聖霊の愛の力がみなぎるように祈りましょう。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光